第1号議案：資料

夢のつばさプロジェクト 2024 年度 事業報告書

2024 年４月１日～2025 年３月 31 日

2024 年度、夢のつばさプロジェクトは、ほぼコロナ前の状況を取り戻して、順調に子どもたちとの活動を行った。夏のキャンプ（8 月３～５日）、秋の交流会（10 月 13 日）、冬のクリスマスキャンプ（12 月 21～22 日）を開催し、冬にはアーチゾン美術館での美術鑑賞などの外出行事も行われた。冬のキャンプが曜日の関係で 1 泊の行事になったこともあって、本年度は 2025 年春にも宿泊行事を企画し、2024 年２月 22～24 日に開催した。

１． 2024 年度の学生ボランティア体制とイベント

2024 年度の夢のつばさプロジェクトは、学生ボランティア代表・副代表をお茶の水女子大学の第２学年の学生が担当し、学生スタッフ、OGOB 約 20 名が活動を行った。

夏キャンプ	2024.8.3 ～5 於：青梅市	ブリヂストン保養所 奥多摩園にて開催。子ども 10 名（中学生３名、高校生６名、社会人１名）、学生スタッフ・OBOG28 名（途中入れ替わりも含む、夢のつばさによる被支援の卒業生複数が学生スタッフとして参加）、社会人スタッフ・協力者８名。 夏祭りをメイン企画に、到着日夜の前夜祭で花火大会を行い、２日目には奥多摩園の食堂１階にて「焼きそば」「フランクフルト・トウモロコシ」「イカ焼き」などの調理とゲームを盛り込んだ販売などを行った。ホットプレートの貸し出しや電源の管理など、奥多摩園の食堂の方々にも支えられて、楽しい催しとなった。 ２日目の夕食後には東京電機大学の岩城和哉先生によるワークショップが行われた。ストローと輪ゴムで、張力の統合を意味する「テンセグリティ」という構造模型を作り上げ、単純な組み合わせで美しくて強い構造が出来上がることに、みな驚いていた。これまでも岩城先生は夢のつばさでいろいろなものづくりを体験させてくださっているが、いつも美しくて驚きのある学びの機会を提供いただけることを感謝したい。 今回は受験生も多いことから、勉強時間もスケジュールに組み込んだ。推薦で進学する子も多い中、受験勉強をする子の問題をのぞき込んだ高３生の一人が、「全然歯が立たない、勉

		強しなきゃ」と刺激を受けていたのもほほえましかった。 　今回は盛岡への送りで新幹線に乗り遅れるアクシデントがあったが、仙台への送りのスタッフ１名が、急遽仙台から付き添う等、臨機応変に対処できて事なきを得た。最後まで緊張感をもって臨むよう、学生スタッフと再確認した。
秋の交流会	2024.10.13 10 時～16 時 於：仙台市	仙台トークネットホール（仙台市民会館）にて開催。子ども４名、保護者２名、学生・OGOB スタッフ 14 名（複数の卒業生が学生スタッフとして参加）。今回は、子どもたちに日程の希望を取ったところ、土曜日と日曜日の半分ずつに分かれてしまった。大学進学を決めた子どもたちが参加を希望する日曜に、お祝いを兼ねて実施することになったが、土曜日を希望した子どもたちが参加できず、残念であった。 　自己紹介ゲーム（流行語大賞年代並べ）でアイスブレイクののち、グループに分かれてドミノ、利きポテチ、気配斬りなどのゲームで成績を競った。本年度の学生たちは企画作りが得意で、自分のグループに失敗をさせるスパイを紛れ込ませて、その人を当てるという仕掛けもあり、盛り上がっていた。今回は朝から昼食をはさんで、丸１日十分に楽しんだ。 　子どもたちの企画中、保護者２名、学生代表・OBOG２名、社会人スタッフ２名で懇談会を行った。久しぶりに会った保護者同士で互いに家族の話や子どもの日常を披露したり、ご苦労を労わりあったりして、こうした集まりを楽しみにしてくださっていることが感じられた。
冬のクリスマスキャンプ	2024.12.21 ～22 於：青梅市	ブリヂストン保養所 奥多摩園にて開催。子ども７名（高校生５名、大学生２名）、 学生スタッフ・OBOG14 名 社会人スタッフ・協力者７名。 　今回は土日が 12 月 21 日、22 日と子どもたちの冬休みの前となってしまい、変則的に１泊での開催となった。また直前に３名の中学生姉弟が体調不良でキャンセルとなり残念であった。 　１日目の午後は、以前より観覧を希望していたが改装中で機会のなかったアーチゾン美術館への来訪を行った。子どもたちが関心を示すか心配していたが、皆とても熱心に鑑賞していた。夕食後の振り返りの時間でも、高名な画家の絵を直接

		鑑賞してみての想いや、現代的な映像作品や立体展示などへの興味など様々な感想が出ており、この企画は有意義であったと感じた。 　夕食には奥多摩園の料理長・支配人が腕をふるったクリスマスディナーをご用意くださり、一同大喜びだった。いつもながら心を込めたおもてなしをいただき、感謝申し上げている。（株）サンリオからもプレゼントが届き、多くの方々に支えられて、夢のつばさが活動できていることに深く感謝したい。 　22 日キャンプ終了後、一同は、夢のつばさプロジェクト学生ボランティア OBOG が独自に立案した同窓会（@お茶の水女子大学の学生食堂）に参加した。日曜日に参加できた卒業生や学生・OGOB スタッフたちと合流して楽しい時を過ごした。子ども 15 名（高校生７名、大学生５名、社会人３名）、学生・OGOB スタッフ 28 名、社会人スタッフ７名が参加。社会人や大学生となった夢のつばさ出身者とも久しぶりに交歓でき、非常に有意義な時間となった。子どもたちが次々に「夢のつばさの存在が自分の心の支えであり、自身の成長にとって非常に大切なものである」と語り、これからもこうした場を作ることが必要だと感じた。
春キャンプ	2025.2.22～24	ブリヂストン保養所 奥多摩園にて開催。子ども８名（高校生６名、大学生２名）、 学生スタッフ・OBOG14 名 社会人スタッフ７名。1 日目午後には国立科学博物館を見学。建物や展示物の規模の大きさに子どもたちは素直に喜んでいた。学生スタッフは、子どもたちに「後でクイズ大会をするので、展示に関するクイズを作っておくように」という課題を出し、貴重な見学機会を、漫然と見逃さないようにする工夫をしていた。 　今回は秋田から高３生１名が参加したが、大雪で在来線が運行中止になり、予定していた新幹線に乗れなかったため、保護者の方が高速道で秋田駅まで送り、遅れて１人で参加した。企画のプログラムなども存分に楽しみ、仲間たちとも親しんで「今後は学生スタッフとして活動したい」と述べており、うれしいことだった。

２．奨学金について

2024 年度、夢のつばさではそれぞれ大学や専門学校に進学している９名の子どもたちに奨学金を授与することができた。本年度新しく支援対象となったのは３名の女子で、 ２名は日頃の努力が実って現役での国立大学入学を果たし、うち一人は医学部に進学を決めた。本人や保護者からも奨学金への感謝の言葉が届いている。また１名は一昨年度高校卒業後、進学していなかったが、本年度イラストレーターを目指して保護者の元を離れ、首都圏の専門学校に進学を決めた。彼女はこれまでも学校生活になじめない中を、夢のつばさには参加し続けてきた経緯があり、学生や OBOG たちは日頃から連絡を取って支えてきただけに、新しい生活の決断を喜び、今後も引き続き応援しようとしている。夢のつばさの奨学金は、毎月 1 万円と少額ではあるが、特に学業用と使途を定めず、返済不要としている。学生生活の中で趣味や自己研鑽に自由に使えるように、また友人と遊びに出かける際や、何かの集まりで飲食費等が必要な時にも、ためらわずに参加できるように、という想いで用意している。2024 年度までに 18 名が奨学金支援を受け（2024 年度で 12 名が奨学金終了）、2025 年度は、さらに５名を加えて 11 名の支援を予定している（うち２名は国立大学への入学を果たしている）。

本年度大学を卒業し奨学金を終了する１名は、在学中も夢のつばさの活動にも積極的に参加して、後輩のために活動をしてきたが、現在、養護教諭を目指し東北での採用の結果報告を待っている。夢のつばさで活動を共にした子どもたちは福祉や教育などへの志向が高く、心豊かに成長していることをたいへん喜ばしく感じている。こうした子どもたちに支援ができることを大変うれしく、多くの方々から手厚いご支援を頂けていることに、心より感謝申し上げている。

３．総括

夢のつばさプロジェクトが 2011 年５月に開始して以来、親を亡くされた子どもさんへの支援活動は１5 年目に入っている。これまでに 50 名ほどの小中高生がほぼ固定メンバーとなって、毎年数回の宿泊行事や日帰りの交流活動に参加してきた。子どもたちが徐々に卒業し、特にコロナ感染症蔓延以後、東北 3 県に参加者募集をかけておらず、本年度の参加者は合計 30 名程となっている。

2024 年 12 月のキャンプ後には、OBOG たちが予算なども別立てで同窓会を企画し、子ども 15 名、学生・OGOB、社会人スタッフ 35 名が集まった。都内で日曜日に開催したことによって、社会人となった卒業生や OBOG たちが久しぶりに参加でき、非常に好評であった。数名の子ども（男女）が、これまでの行事ごとにプレゼントされたアルバムや誕生日カードなどをそろえて持ってきて披露して、参加したばかりの頃などを振り返って話が盛り上がった。学生スタッフは「こんなにも大切にしてくれているのか」と感激していた。

「夢のつばさは、安心して自分を出せる場所」「夢のつばさがなかったら、今の私はいなかったと思う」などの言葉が何人もの子どもたちから出て、この活動を続けてきたことが報われる思いであった。改めて、この活動に賛同して下さる方々の温かいご支援が、夢のつばさプロジェクトを続ける原動力であったことに感謝している。

また、本年度行ったアーチゾン美術館の美術鑑賞も国立科学博物館の体験も、子どもや学生たちにとても好評であった。これまで一度も美術館に行ったことがないと話す子どももあり、教育現場の方たちの努力にもかかわらず、子どもたちの育つ環境による体験格差は埋めがたいものがあるように思われる。夢のつばさでは「親を亡くされたことによって、成長段階における様々な体験や機会を失ってほしくない」と社会見学や教育的施設の観覧なども活動に盛り込んできたが、今後も東北３県の子どもたちを対象に、この有意義な活動を続けていきたいと願っている。この活動に参加する子どもは徐々に減少することが予想されるが、社会見学と同窓会を組み合わせることで、今後もよい活動ができるのではないかと考えている。